

こんなセン、セイになりたい

谷野恵美子

まだ学生であったころ、先輩の〇先生から「子どもを叱らないで育てられる先生になってごらん下さい。やさしいようでも、これほどむずかしいことはないでしょう。人間としての自分の経験を豊かにして、つねに向上しようとする意欲を失わないよう。」ということを知ることがあります。

保育をする人のだれもが、健康であり、円満であり、豊かな、また、調和のとれた人格の持ち主でありたいと思ひ、精神的にも、安定感のある。健康的な人でありたいと思ひます。

幼稚園の先生は忙しい、身体的にも、精神的にも、休まる時がない、といわれますが、そこには、何か、無駄な、また偏った生活のしかたがあるのでしょうか。

友人のMさんは、教育愛にもえ、有能な教師といわれている人です。子どものためなら少しも努力を惜まないタイプで、毎日、たいへん遅くまで、今日のしまつ、明日のしたく、ピアノの練習、と時の経過も忘れるほどで、夜帰宅して、ただ一人で夕食をすませ、家族と話し合う時間もおしんで、個人記録票の記入、明日の童話の下よみ、心理学の勉強といったぐあい。指導計画もよし、カリキュラムには忠実に、父兄からの信頼もあつたといううわさ。ところが、最近よいお話があつて、おつき合ひをはじめたが、相手の方の話

が合わないことが多く、たいへん苦労しているということ。Mさんは、最も得意の話題で、幼稚園であったことを話題とし「〇〇チャンは今日はこんなことをした。」とか「△△チャンは、こんないたずらをした。」などと話すのだそうです。相手の方は、いつものたのしうにきいて下さるので、理解があつてうれしうと喜んでいました。しかし数回そのようなことがあつたある日、相手の方から「今日は△△チャンはどんないたずらをしたの。」とたずねられ、胸がドキリとし、自分にはただこれだけの話題しかないのかと、淋しく感じ、今まで子どものためにと努力したことが、実際には、あまりにもかたよつた、狭い努力のしかたではないかと反省した、としみじみ語っていました。

都心の子どもは、自然物の観察が、思うようにできないと、なげいたり、「こんなにやくの木」や、かにやえびの色も知らない教師であつたり、汗もだらけの子どもをみて、母親のだらしなさをなげいたりする前に、教師自身が、自分の生活を、もう一度ふりかえつてみる必要があると思ひます。

いそがしいの一点ばりをやめて、能率的に仕事を片付け、雑務を整理し、自分の家庭生活を充ぶんに楽しみ、運動もし、音楽もきき、手芸もし、たまには山を歩くこともよいでしょう。疲れを忘れるために、ほんやり過したり、大声で歌をうたつてみることも、よいと思ひます。

たのしく台所で働き、お買物にでかけ、映画もみたり、おにごっこもするお隣りのお姉さん。気やすく話かけられ、甘えられ、そしてその中に、規律のあるたのしい生活が、子どもとともにできるやさしいお隣りのお姉さん。私は、このような、センセイになりたい

と思っております。

(幼稚園教諭・東京)

私たちの職員室

上山 幸子

私は、このごろ職員室は珍らしくもないし、日常はあまり関心もない室となったのですが、きょうは静かに眺めてみることにいたしました。

○ 私たち教職に繋がるものはだれかれの差別なく、はじめて社会にでて、幼稚園という職場に赴任して、いちおう最初に腰かけるところは、職員室という名のある部屋でありましょう。

○ ここに集る先生方は、相互の信頼と友愛によって、和というありがたい雰囲気の中、生活しているのであります。そして楽しい環境で、自分たちの仕事に努力感謝して、希望に明け暮れているのでございます。

○ ここでは、会議、協議、討論、懇談それに休養するのがこの職員室です。現状ではたいの幼稚園が、なにかも一つでまに合せている室を、職員室と名づけているようです。

○ 私たちはこの青春を一つの教育にささげて努力しております。人

生の最も活動期の生活であり、睡眠と休養の時間をはぶくと、大部分は幼稚園で暮らすことになっております。

そして一日の生活中、幼児とともにある時間は最も精力を傾注する時間であって、この職員室にもどってきての時間は、保育のありかたや反省あるいは事務のことなど考えたり書いたりしますが、また、いこいのためのオアシスでもあるのです。

○ この職員室こそ私たちの生活には、たいへんに重要な意義を持つところであると思います。

○ そこで職員室の空気というものを、私たちが住みよいものにしななければならぬと思います。それには私たちがおたがいに謙虚な気持ちで、和を造ることです。もっと明るいものにし、ここで働く私たちの心に、希望をおたがいがもつことです。

○ この和というものは、実際にたいせつなしかも根本的な問題であって、私たちは各自の活動を最大限に發揮して、人にはけつして妨げをしないという一つの線を堅く守ることです。これが和になる条件であろうし、精神でもあると私は考えているのでございます。

○ 先生たちおたがいは、いろいろな性格があります。この先生たちが姉妹のようなきもちでつきあっている、おたがいに許しあっていることが根本であろうと思えます。

○ 自分の性格に合わないからといって、けげらいするのはまちがいであります。

○ ある人が「山にはいろいろな色の木の葉がまぎっているので美しいのです。一つの集りにも種々の個性があつてこそ強い力になるの